

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

中性脂肪蓄積心筋血管症の診断基準 2020 の検証

研究分担者 小林 邦久 学校法人福岡大学 筑紫病院 教授

研究要旨

中性脂肪蓄積心筋血管症(Triglyceride deposit cardiomyovasculopathy, TGCV) は、2008 年わが国の心臓移植症例より見出された新規疾患単位である。中性脂肪が心筋と冠動脈に蓄積する結果、重症心不全・不整脈・冠動脈疾患をきたす難病である。我々は2009 年から本疾患に対する検査法・診断・治療について研究をおこなってきた。本年度においては2020 年に作成し論文として報告した「TGCV 診断基準 2020」を検討委員会委員長として検証した。2021 年12 月現在、全国50 施設でTGCV が診断されていた。また、TGCV 患者会と連携してTGCV 克服シンポジウム「TGCV の指定難病化を目指して」を2021 年12 月4 日（土）に開催するなど、TGCV について啓発活動を行った。

A. 研究目的

原因不明の難病であるTGCVの診断基準を最新の知見をもとに改訂し、早期診断・早期治療につなげて、政策課題「医療関連イノベーションの推進」の一助となることを目的とする。

B. 研究方法

2020 年5 月9 日に設立したTGCV 診断基準検討委員会を設立し、再度TGCV に関する論文および学会報告を収集し解析して、2022 年2 月26 日Web 会議によって討議を行った。

（倫理面への配慮）

論文・学会報告をもとに検討したことから倫理面の問題は存在しない。

C. 研究結果

2021 年12 月現在、全国50 施設でTGCV が診断されていた。累積診断数は、491 例、内70 例が既に死亡していた。「TGCV 診断基準 2020」における①心筋細胞内脂肪蓄積、②心臓CTにおける心筋脂肪蓄積、③MR スペクトロスコピーにおける心筋脂肪蓄積についてそれぞれ根拠に基づいて具体的な数値基準を検討した。TGCV 患者会と連携してTGCV 克服シンポジウム「TGCV の指定難病化を目指して」を2021 年12 月4 日（土）に開催するなど、TGCV について啓発活動を行った。

D. 考察

「TGCV 診断基準 2020」を用いて全国レベルでの診断が可能になった。

E. 結論

「TGCV 診断基準 2020」の各項目について数値基準について検討した。また TGCV 患者会と連携して TGCV の啓発活動を行った。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 小林邦久 TGCV診断基準2020

Coronary Intervention 17(5), 40-43,
2021

2. 学会発表

1) 教育講演：糖尿病における脂質代謝異常 小林邦久, 第 59 回日本糖尿病学会九州地方会, 2021. 11. 19-20, 国内, 口頭

2) リポ蛋白リパーゼ欠損症（ヘテロ接合体）を合併した糖尿病性腎臓病の 1 例, 小林邦久, 中性脂肪学会第 4 回学術集会, 2021. 12. 4, 国内, 口頭

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし